

最も小さな胎児を大切に

NPO 法人円ブリオ基金センター理事長 湯原美陽子

いつも円ブリオ基金センターにご協力頂き有難うございます。円ブリオ基金は、お蔭様で次第に社会の方々にも認知され、支援を求める方々も多くなり、赤ちゃんとお母さんの最後の砦として認識され、それによって社会の胎児の対する認識も変化してきました。昨年、胎児への給付金が決定され、多くの市区町村で胎児も社会の一員として扱う機運も高まってまいりました。これも皆様が各地で頑張ってきて下さったお蔭と感謝致します。

マザー・テレサがインドの片隅でどんな命も神様から送られるかけがえのない宝だと声を上げ、手を伸べられ、そのいのちの視点が世界を駆け巡ったように、それに動かされて始まった私たちのささやかな生命尊重の叫びと、胎児の人権を認め守ろうという運動は多くの人の心を動かし、多くの手が差し伸べられ、ここまで来ました。

今コロナの渦中にある私たちは、改めて今まで追い求めてきた豊かさや化学技術の進歩が人間性を見失わせて来たのではないかと振り返り、根源的な「人の世」に目を向け考え始めました。AI と競争社会にふりまわされ、ひたすら追い求めてきたものは何だったのか、多くの人がそんな中で孤独と落ちこぼれになっていきました。今一人一人が個性のあるかけがえのない存在であることを悟り、人と人との交わり、共に生きる喜び、支え合い、守り合い、温かさや優しさを出し合って生きていくことが大切だと変わってきています。

ご承知のように、金融機関が硬貨の扱いに高い手数料を徴収し始めています。皆様が一生懸命基金として集めて下さっている基金、子ども達やお年寄りが一生懸命貯めてくれた小銭をどのようにしたら良いのか、小さな真心をどのようにして大きな力にしていくのか、円ブリオ基金の理念が根底から覆されようとしています。

円ブリオは、最も小さな胎児を大切に、運動を展開してきました。その基金で900人もの胎児の命とお母さん方を支援してきたのです。この精神は今後もしっかり守り続けていくべき私たちの基本です。システムは変わっていこうとも、基本精神は変わることなく、今後も皆様と共にこの運動を続けていきたいと願っています。

コロナも収まってきましたが、また次の波がいつ押し寄せてくるかわかりません。私達は、コロナを通して、出会いが大切、一緒に集うことが嬉しい、共にいてこそ生きる力、生きがいもあると感じて、それこそが真の人間の基本的な「人の世」だとわかりました。胎児もその一員です。社会の枠組み、競争社会、AI などを超えた「人の世」を大切に作る世界に変わっていきますように願いつつ。

